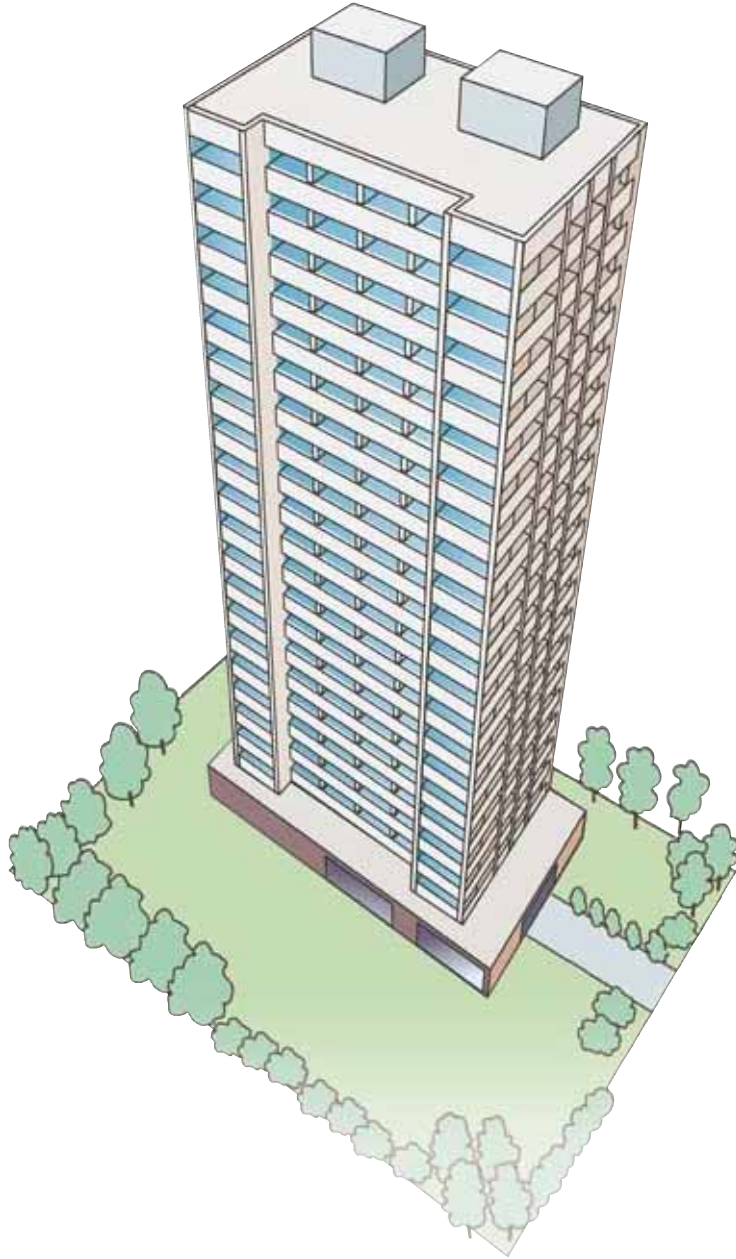


高層住宅防災対策

震災時活動マニユアル策定の手引き



中央区

目次

第1編 マニュアル策定にあたって	1
1. 策定の背景と目的	3
2. 手引きの構成	4
第2編 標準マニュアル	5
1. 標準マニュアル	7
2. 標準マニュアルの構成	8
I 震災時活動マニュアル（行動編）	9
1. 発災後の活動の流れ	11
2. 対策本部を設置する上で決めるべき内容	12
A 【発災期】：地震発生直後～1日目の活動	15
1. 各住戸の活動	16
2. 各階の活動	18
3. 対策本部の活動	24
B 【被災生活期】：2～3日目の活動	29
1. 対策本部の体制の充実	30
2. 各階の体制の充実	39
C 【復旧期】：4日目以降の活動	43
平常時の体制へ移行	44
記載用様式集	47
II 事前対策マニュアル（準備編）	57
1. 施設設備の整備・点検	59
2. 防災活動・コミュニティづくり	63
3. 地域との連携	65
第3編 マニュアル策定の方法	67
1. マニュアル策定のスケジュール	68
2. 策定組織の設置	72
3. 現状の把握	73
4. 活動体制・内容の検討	82
5. 事前対策の検討	101
6. マニュアルの作成と情報提供	107
7. 複数建物タイプと複合用途タイプの留意点	108
マニュアルQ & Aと対応例一覧	111
1. マニュアル Q & A	113
2. 対応例一覧	116

第1編

マニュアル策定にあたって

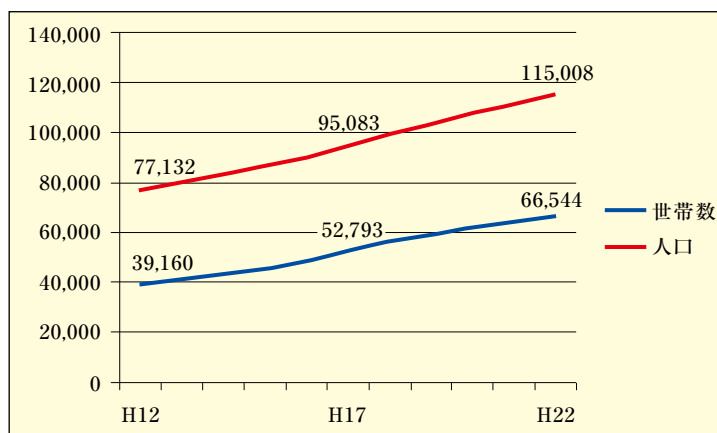
1. 策定の背景と目的

(1) 増え続ける高層住宅

中央区の平成22年4月1日現在の人口は115,008人、世帯数は66,544世帯で、10年前と比べると人口は約1.5倍、世帯数は1.7倍と急増しています。

また、近年高さ60mを超える超高層住宅の建設が進み、マンションなどの集合住宅に居住する世帯は86%に達しています。

このような高層住宅の増加により、中央区の防災対策にも新たな取組が求められることになりました。



中央区の人口・世帯数の推移

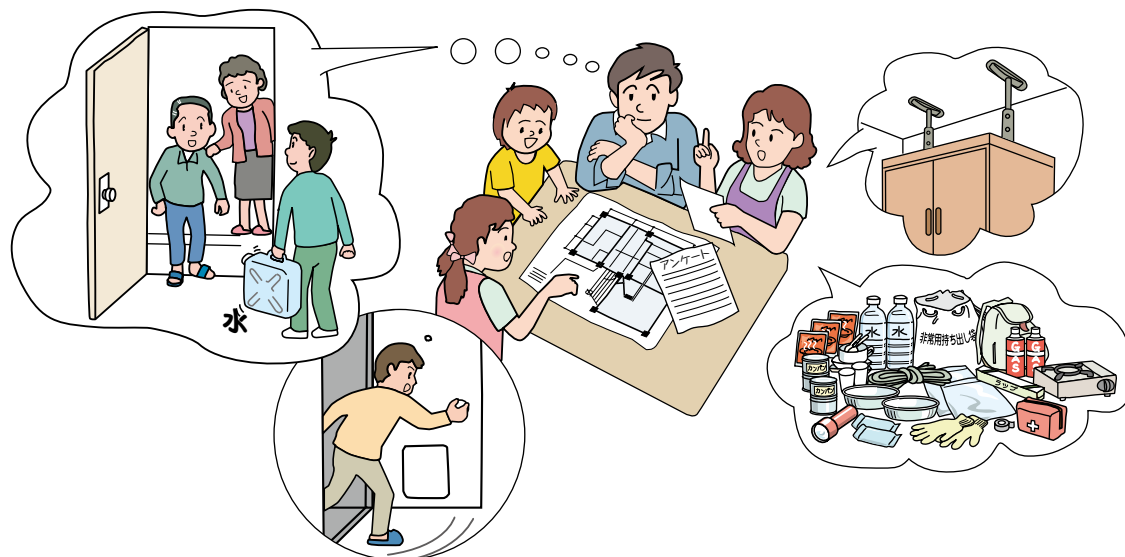
(2) 大地震時の問題と対応

大地震が発生した場合、高層住宅は、建物自体は耐震性に優れていますが、ライフライン（水道、ガス、電気等）およびエレベーターの停止、家具類の転倒などにより、通常の生活が困難になり、居住者の安否確認、救援救護、被災生活等の問題が発生すると想定されます。特に、高層階の居住者、高齢者などの災害時要援護者にこれらの問題が集中することが考えられます。

中央区では、高層化によるこのような問題を解決し、震災時に自宅で生活が継続できるよう、これまで自立型高層住宅に向けた環境づくりや防災意識向上のためのパンフレットやDVDの作成に取り組んできました。

(3) 高層住宅の防災対策を進めるために

本冊子は、高層住宅にお住まいの方、管理組合・自治会の皆さまが大地震発生に備えた活動や組織づくりなど、防災対策を進めていただけるよう、活動マニュアル策定の手引きとしてまとめました。



2. 手引きの構成

「第1編」では策定の目的など、「第2編」では標準的な震災時の活動と事前対策を示し、高層住宅それぞれの実態に応じてマニュアルの作成ができるようにしています。「第3編」では、マニュアルを策定するために必要な組織の設置や方法について記載しています。

■構成

